

## 地域医療支援病院の認定を受けました



地域医療支援病院は、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線の地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、都道府県知事が個別に承認しています。

地域医療支援病院の主な機能と承認要件を以下に紹介します。



病院長 光田 信明

## 主な機能

- ・紹介患者に対する医療の提供  
(かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む)
- ・医療機器の共同利用の実施
- ・救急医療の提供
- ・地域の医療従事者に対する研修の実施



## 承認要件

- ・開設主体：原則として国、都道府県、市町村、社会医療法人、医療法人等
- ・紹介患者中心の医療を提供していること。  
具体的には、次のいずれかの場合に該当すること。
  - ア) 紹介率が80%以上であること
  - イ) 紹介率が65%以上であり、かつ、逆紹介率が40%以上であること
  - ウ) 紹介率が50%以上であり、かつ、逆紹介率が70%以上であること
- ・救急医療を提供する能力を有すること
- ・建物、設備、機器等を地域の医師等が利用できる体制を確保していること
- ・地域医療従事者に対する研修を行っていること
- ・原則として200床以上の病床、及び地域医療支援病院としてふさわしい施設を有すること

以下に、当センターの具体的医療提供を挙げてみます。

周産期医療では、NMCS(新生児診療相互援助システム)、OGCS(産婦人科診療相互援助システム)の基幹施設としての役割が挙げられます。

小児部門では最近の数年をかけて、軽症や初期救急・休日夜間の急患(当番制)、二次救急告示医療機関、三次救急としては、PICUとI階東棟(急性期病棟)、小児中核病院としての指定を受けており、救急医療提供の充実を図っています。

当センターは新生児・小児領域に精通した麻酔科と集中治療科が充実しており、手術手技や鎮静の必要なMRIやCTといった検査を安全に行うための設備と、子どもたちに寄り添ったチーム医療を備えておりますので、安心してご利用いただければと存じます。

ご相談やセカンドオピニオンの受付窓口として、患者支援センターをはじめPICUホットライン、小児がん・白血病ホットライン、心疾患ホットラインなどの設置・充実を図り、より多くの医療関係施設の皆さまとの地域医療連携システムの運用をすすめています。また、患者支援センターにおいては、地域診療情報連携システム(南大阪MOCOネット)が稼働しています。

今後も地域の患者さん、医療機関の皆さまからの要望に応えるべく努力してまいりますのでご支援・ご助言のほど、よろしくお願いいたします。

## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

## 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。



腎疾患、骨ミネラル代謝異常症、糖尿病、電解質異常症を対象に専門的な診療を行っています

腎疾患

腎炎・ネフローゼの診断・治療、急性腎障害・慢性腎臓病の保存期管理、腎代替療法（腹膜透析・血液浄化療法）の導入・管理まで、一貫した診療を行っています。腎炎・ネフローゼの子どもに対して経皮的腎生検を年間25件前後実施しています。幼児期・学童期では全身麻酔下で行っています。臨床的・組織学的に症例を検討し、免疫抑制薬治療（抗体療法を含む）を中心とした適切な治療を選択していきます。また、乳幼児期からの血液浄化療法、腹膜透析管理も行っています。

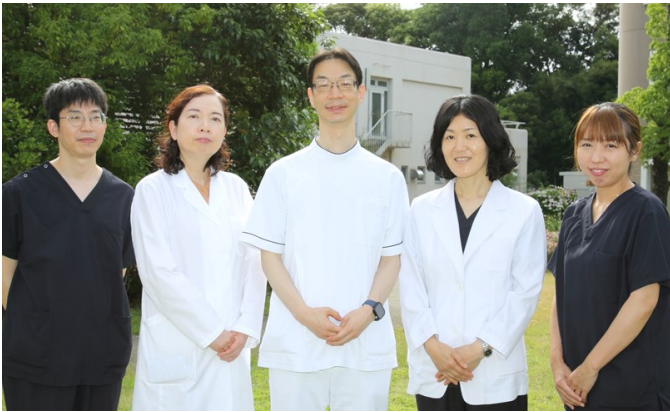
骨ミネラル代謝異常症

カルシウム・リン代謝異常である副甲状腺機能低下症、ビタミンD欠乏性くる病、X染色体連鎖性低リン血症性くる病（XLH）、骨格の形成や維持に異常を認める骨系統疾患、軟骨無形成症、軟骨低形成症、骨形成不全症、低ホスファターゼ症などを診療しています。適切に診断し、多診療科連携による合併症管理を行っています。疾患の適応に応じて、活性型ビタミンD治療、抗体療法、成長ホルモン治療、分子標的治療、ビスホスホネート治療、酵素補充療法などの治療を行っています。

糖尿病、電解質異常症

1型糖尿病・2型糖尿病の急性期治療と慢性期治療を行っています。PICUの協力のもとケトアシドーシス治療を行い、積極的に持続グルコースモニタリング、インスリンポンプ療法を行っています。また、尿崩症などのナトリウム代謝異常症も診療しています。

上記疾患の専門的診断・治療が必要な症例がございましたら、疑い症例も含めてどうぞお気軽にご相談・ご紹介いただけますと幸いです。迅速かつ丁寧な対応を心がけております。



腎・代謝科スタッフ

診療実績（2024年）一部重複

- ・腎炎・ネフローゼ:198名
- ・遺伝性腎疾患:67名
- ・腎・尿路異常:326名
- ・保存期慢性腎臓病:224名
- ・在宅腹膜透析:9名
- ・腎移植後:33名
- ・カルシウム・リン代謝異常症:64名
- ・骨系統疾患:142名
- ・糖尿病:37名
- ・電解質異常症:25名 など

外来担当表

	月	火	水	木	金
午前	窪田	山村	窪田馬場	藤原	山村
午後	山村	藤原	道上		窪田



（腎・代謝科 主任部長 窪田 拓生）

筋生検診断

筋生検診断とは

筋肉の一部を採取し顕微鏡などで詳しく調べることにより筋疾患の診断を行う検査のことです。この検査は、筋疾患を疑われる患者さんで診察所見や血液検査、筋電図検査などの補助検査だけでは診断が確定できない場合に重要となります。

**目的** 筋肉の形態的異常や酵素活性などを調べ、筋疾患の病理学的な評価を行います。

**対象疾患** 筋ジストロフィー、皮膚筋炎、先天性ミオパチー、ミトコンドリア異常症など。

- 検査方法**
- 1.検体採取: 診断に必要な筋肉の小さな断片(5mm立方程度)を手術的に採取します。採取部位は、筋力低下や筋萎縮が軽度～中程度あり疾患に特徴的な病理変化を評価しやすい部位が選ばれます。一般的には上腕二頭筋や大腿直筋などです。
  - 2.検体処理: 採取した筋組織は、ホルマリン固定や凍結固定などの方法で処理します。その後、組織化学的検査や免疫組織化学的検査を行います。
  - 3.病理学的評価: 各種の染色法を用いて顕微鏡で観察します。その結果、筋線維の大小不同、萎縮の形状、壊死・再生線維、炎症細胞の浸潤などの病理学的変化を評価して筋病理診断を行います。
  - 4.追加検査: 必要に応じて電子顕微鏡検査や、筋組織から分離したDNAやRNAを用いた遺伝学的解析も行われることがあります。



以上より筋疾患の診断を行います。

筋生検診断は、筋疾患の診断において中心的な役割を果たす検査です。

（脳神経内科 副部長 富永 康仁）

2025年度の取り組み

2024年度より妊産婦のメンタルヘルスに関するネットワーク構築事業がスタートし、2年目となりました。

本年度は、秋に市町村の事例検討会、2026年1月に研修会を開催予定としています。

2025年度4月より以下の活動を行いました。

● 大阪府妊産婦こころネット連携会議

7月17日 於：研究棟大会議室

⇒ 2024年度活動報告及び2025年度の活動計画の検討

⇒ 講演  
「妊産婦死亡、我が国での概要と大阪の状況」  
OGSC運営委員会 委員長 吉松 淳 先生

● 機関相談・コーディネート事業

⇒ 機関からの相談は、  
4月4件、5月2件、6月2件、7月4件でした。

● 産科・精神科診療機能調査

⇒ 大阪府下全産科医療機関、全精神科医療機関向けに、妊産婦メンタルヘルスにかかる診療機能のアンケートを実施しています。

\*ホームページを開設しました

<https://cocoronet.info>



薬局では、2021年から当院の医師や看護師、薬剤師、保険薬局の薬剤師を講師として、年に2回オンライン勉強会を開催しています。

参加者は、「院外処方せん疑義照会簡素化プロトコル」（疑義照会に係る業務軽減を目的とした取り決め）を締結している保険薬局の薬剤師が多く、当院における治療への関心の高さが窺えます。

今までに扱ったテーマには、薬剤サマリ、薬物療法（てんかん、抗菌薬、白血病、精神科領域など）、退院時支援、緩和ケアチームの活動などがあり、毎回好評を頂いています。

オンライン開催で参加しやすくなっていますので、薬剤師以外の職種の参加も大歓迎です。ご興味ある方はご連絡ください。

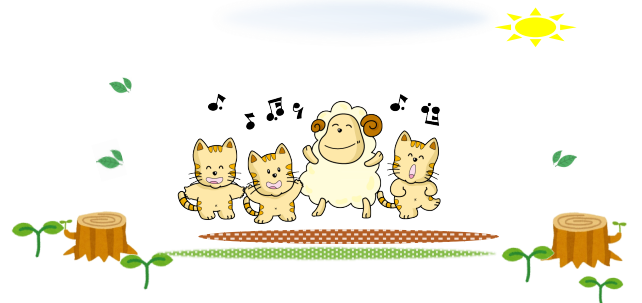
次回勉強会は10月21日（火）



テーマは

「一緒に学ぼう！循環器のお薬のキホン」

を予定しています



脊髄性筋萎縮症（SMA）新生児マススクリーニング（NBS）

脊髄性筋萎縮症（SMA）は進行性の運動機能低下を示す疾患で、対症療法しかありませんでしたが、近年有効な治療薬が開発され診療に良い変化が生じています。

病気が進行する前に治療するとより大きな効果が得られることから、新生児マススクリーニング（NBS）の対象疾患となり、すでに大阪府で生まれるすべての赤ちゃんにSMA-NBSが無料で実施されています。

当センターは大阪府のNBS検査センターです。そして、SMA-NBS陽性児は当センター脳神経内科が対応し、すべての陽性児が早期治療につながっています。

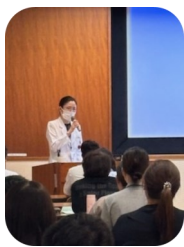
SMA児の未来の可能性を大きく広げるSMA-NBSを今後も安定して実施していくことが当センターの責務だと考えています。

（ 脳神経内科 副部長 木水 友一 ）



## 第20回 光明池セミナー

当センターでは、定期的に府民公開講座を開催し、府民へ医療情報をわかりやすくお伝えしています。



今回は、当センターと大阪府立羽曳野支援学校の共催で「医療的ケアの必要な子どもたち」をテーマに、「大阪府医療的ケア児支援センターの活動」「医療的ケアの子どもを家族と共に育てるために、大切にしていること」「分教室（院内学級）での取り組み」の3題の講演を行いました。

7月22日開催日には、83名の方にご参加いただき、アンケートには「とても勉強になりました」など高評価を多くいただきました。



## どこでも万博

病院から万博を見に行こう！

スペシャルキッズ未来構想チャレンジコンソーシアム主催「スペシャルキッズとつくる未来の万博遠隔体験“どこでも万博”」が7月5日に開催されました。



午前の部と午後の部の2回開催し、当センター通院中・入院中の子どもたちとご家族の計17家族が参加しました。

病院と万博会場をオンラインでつなぎ、リアルタイムでイタリア館を見学しました。

展示物にまつわるクイズや現地の来場者と直接会話したりと楽しい時間を過ごしました。



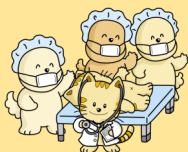
## 第16回きっずセミナー

当センターでは、未来を担う子どもたちが、自分の将来について考える機会になってほしいと、2010年から「きっずセミナー」を開催しています。



今年は、コロナ禍以降5年ぶりに対面型のみで8月2日に開催しました。参加者は制服に着替えて実際の医療現場を体験します。

8コース（医師の手術・医師の救命救急、看護師、助産師、薬剤師/臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、研究者）は、定員160名のところ350名もの応募があり、142名の子どもたちが参加してくれました。



## キラリベビーサークル写真展

昨年に続き、低出生体重児のご家族による「キラリベビーサークル」写真展を病院ロビーで開催しました。



成長された早産児のお子様の写真やリトルベビーハンドブックの紹介が並び、たくさんの皆さまが足を止め、笑顔で熱心にご覧になっていました。

小さく生まれた赤ちゃんが元気に育つ姿は、入院・通院中のご家族にとって大きな励みになったことと思います。



### 交通のご案内



診療時間：平日 9時～17時30分

予約受付時間：平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890（直通）

FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113（直通）

FAX：0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail：chiren@wch.opho.jp

医療対象者  
ホットライン  
（※24時間受付直通）

PICUホットライン  
0725-56-1070

小児がん・白血病  
ホットライン  
0725-57-7677

心疾患ホットライン  
0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。